



これまでの「しが旅のススメ」はこちらから



甲良三大偉人の一人である婆娑羅大名・佐々木道誓公は、1296（永仁4）年に京都の高辻京極館で生まれた。鎌倉幕府時代は時の執権北条高時の相伴衆として重く用いられた。元弘の乱では軍目付として京都市に上り、乱後の処理役として後醍醐天皇を隠岐に遷幸する際の護送警護役等を行った。
しかし、北条高時は政務を顧みず歌舞、音曲、闘犬に明け暮れる乱れた生活をした。

■ 佐々木道誓ゆかりの勝楽寺（甲良町）

時空を超えた大花見の宴



佐々木道誓公の肖像画

室町幕府創設時は、南北朝の時代で非常に世の中が不安定であったことから、道誓公も大いに婆娑羅ぶりを発揮した。挙げ句には、門跡寺院である妙法院をささいなことから焼き討ちに

続けた。失望した道誓公は足利尊氏と盟約を結び、鎌倉幕府を倒し、室町幕府の創設に貢献することになった。

室町幕府創設時は、南北朝の時代で非常に世の中が不安定であったことから、道誓公も大いに婆娑羅ぶりを発揮した。挙げ句には、門跡寺院である妙法院をささいなことから焼き討ちに

するなど傍若無人の振る舞いで、婆娑羅大名の代表格とされることとなった。南北朝の動乱のこの時期にも足利尊氏との盟約を守り、数々の争乱をくぐりぬけ、足利尊氏の死後も2代將軍・足利義詮をもち立てた。横柄な幕府の実力者が歌合わせ会を計画したならば、それ以上の歌合わせ会を行った。ある時、花見



勝楽寺山門 甲良町で

の宴が催されることを知り、それ以上の大花見の宴を催し、参加者の大多数を道誓主催の催しに招き、横柄な幕府実力者に恥をかかせた。さらに失脚へと導くなど大いに婆娑羅ぶりを発揮し、室町幕府の幾多の危機を乗り切り、3代將軍・足利義満に引き継いだ。

本拠とする館は、領国の南に位置する甲良の莊勝楽寺。1337（建武4）年に柏原から移り、その後、臨済宗寺院の勝楽寺を創建し、菩提寺とした。現在、勝楽寺は本堂、山門、大日堂、道誓公墓所、勝楽寺山城址、道誓公肖像画（国重要文化財）、大日如来坐像（国重文、道誓公念持仏）等の文化財がある。道誓公の菩提寺としては、物静かな寺となっている。

車無料。



【アクセス情報】勝楽寺
＝QRコード＝は甲良町正
楽寺4。名神
高速道路の湖
東三山スマー
トインターチ

（甲良町観光協会・若林嘉昭）